自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190200832		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里グループホームたいへい Aユニット		
所在地	札幌市北区太平2条4丁目1番55号		
自己評価作成日	令和4年1月12日	評価結果市町村受理日	令和4年7月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0190200832-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和4年7月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・立地場所のすぐ目の前にはJR太平駅、国道231号線も近くに通っており、交通の便が良く、小学校やスーパーなどもあるため、地域との交流も図れる環境に立地しています。
 ・入居者様の歩んできた人生を重んじ、今までの日常生活が変わらず過ごせるように支援するため、一つの生活空間が6名という少人数の中で、生活時間帯は手厚い人員配置のもと認知症ケアを行い、若年性認知症など個々に合わせた専門的な支援を行っています。
 ・健康面では協力医療機関と提携し、月2回個別に医師の訪問があるのと、訪問看護による週1回の健康管理を行っています。また、突然の体調変化にも対応出来るよう、24時間医師・看護師と連絡が取れる体制を整えています。栄養面でも楽しみの一つとなる食事は、管理栄養士による栄養バランスのとれた献立に基づき食事を提供し、個々の食事形態(キザミ食やミキサー食、塩分制限など)に合わせた食事の提供も可能です。祝祭日・行事などの日にはお祝いのメニューもあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ふれあいの里グループホームたいへい」は、JR太平駅から徒歩で数分の住宅地に立地している各ユニット6名定員のグループホームである。近隣には小学校やスーパーマーケットもあり、生活の利便性が高い事業所である。2階建ての各階に2ユニットがあり、事務所と台所を中心にそれぞれのユニットで行き来することができる造りになっている。開放感のある明るい居間や食堂、廊下には職員手作りの綺麗な作品が飾られており、家庭的な温もりが感じられる。昨年新たに着任した管理者を中心に、4ユニットの利用者全員を把握し全職員で協力できる体制を整え、一人ひとりに応じた適切なケアを目指して熱心に取り組んでいる。馴染みの人との関係継続では、知人や友人と手紙や電話での交流を支援したり、感染状況を見ながら短時間で面会なども検討している。職員育成の面では法人支援のもと計画的に研修を実施し、各職員が研修報告書を作成して学びを再確認することで、それぞれの職員の資質向上につながるよう取り組んでいる。食事面においては、年間行事に合わせて寿司や和食弁当などの出前を取ったり、誕生日やおやつに職員手作りの品を提供するなど、感染症流行で外出や外食ができない利用者を楽しみが持てるように工夫しながら丁寧なケアを行っているグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を各ユニットに掲示して共有し、その理念に基づき実践に取り組んでいる。	施設理念に「安心して暮らせるよう、地域とのつながりを大切にします」という、地域密着型サービスを意識した項目が含まれている。入職時研修で説明し、入居者への対応などで迷った時に全職員で理念に立ち返って検討している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ渦以前は町内会のイベントなどに参加していたが、現在は感染対策の観点から行事の開催が無く、施設側も外出自粛や入館制限など実施している為、回覧板の受け渡しなど限定的になっている。	感染症流行のため地域交流はほとんど無いが、職員が近隣住民と挨拶を交わしたり付近の除雪を一緒にしている。町内会長が事業所周りの除草作業をしてくれることもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染対策により町内行事の中止や外部からの訪問者の制限などにより実施出来ていないが、今後の展開により方法や機会の確保などに努めたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染対策の為、運営推進会議が書面開催となっており、直接会議に参加して議論を重ねる事は出来ないが、電話や書面によりサービス提供内容を伝え、ご意見があった場合には確認し実現に向け検討している。	感染症流行のため書面会議を開催し、入居者情報や事故・ヒヤリハット、行事、今後の予定を記載した議事録を全家族と構成メンバーに送付している。議事録に対する意見収集までには至っていない。	テーマに沿った役立つ情報資料などを議事録と一緒に送付し、参加できない構成メンバーからの意見や質問なども議事録に反映させるよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居状況調査報告や事故報告での関わりや、各担当部署への必要事項の確認など日頃より協力関係が維持出来るよう努めている。	管理者変更届の提出など、主に法人のエリアマネージャーが行政と連絡を取っている。管理者は、役所とメールでやり取りしたり情報提供を受けている。地域包括支援センターと電話で入居者の相談をすることもある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化の指針や身体拘束排除宣言を各ユニットの事務所に掲示し、身体拘束をしない介護に取り組んでいる。三ヶ月ごとの不適切ケア防止委員会、半年ごとの身体拘束に関する研修を行っている。	禁止の対象となる具体的な行為を記載した法人共通のマニュアルを整備し、3か月ごとに委員会を開催している。入職時研修や年2回の内部研修で、禁止の対象となる具体的な行為に関しても学んでいる。委員会議事録と研修資料、研修報告書を見やすく整備したいと考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の研修への参加やユニット会議内で虐待についての話し合いなどを行っている。		

ふれあいの里グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象者がいないこともあり、関係機関と学ぶための交流はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には重要事項説明、利用契約書を説明し同意を得ている。また、改定がある際は文書や運営推進会議の場で説明し、書面にて同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の意向は自発的に訴えられる方は少なく、職員が確認し反映出来るよう努めている。ご家族様よりの電話連絡や個人ごとのお便りを作成して情報交換に努めている。	家族の面会時や電話で利用者の様子を伝えて意見や要望を聞き取り、何かあればパソコンで支援経過記録に記入している。個別のお便りを2か月ごとに作成し、行事に合わせて写真も一緒に送っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議の場で出た意見を取り入れ、入居者様の為になるものは積極的に取り入れるようにしている。	管理者はユニット会議や業務の中で職員の意見や提案を聞き取り、業務の流れや内容、勤務時間体制の変更など、利用者中心に考えながら働きやすい環境を整備している。職員はお便りや利用者担当など、係を分担して運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人員の確保や制度の活用、毎年昇給を行い、労働環境の改善に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社独自の研修計画を立て、職員に合った研修を行って、職員のスキルアップに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染対策の観点からオンラインにて管理者会議などの交流はあるが、外部との交流を控えており集合しての勉強会や訪問などは行っていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の生活歴・嗜好・趣味・特技などを事前に本人、ご家族、医療機関、利用していたサービス事業所などから情報収集し、利用開始前に把握し、良い関係作りに役立てている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要望・希望・不安・気になることなど利用開始前から話を聞き、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始時には出来るだけポイント絞り込み、今必要な支援と、関係作りの構築に集中するように心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事と出来ない事の見極めをし、出来ることは行ってもらいながら生活して頂き、共同生活であることを実感してもらえるように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在は一定の制限があるが、限られた時間や人数での面会を行ったり、電話にてご本人様と直接お話ししていただくなど交流を継続している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親族は勿論のこと、友人など面会制限することなく、関係を継続している。	知人や友人からハガキや手紙が届いたり、電話で話しをする利用者もいる。感染状況を見ながら短時間の面会対応なども考えている。感染症収束後には、以前のような個別支援や数人での外出を再開する予定である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が会話出来るような空間を作り、関係を維持または構築できるように配慮している。時には、ユニットに拘ることなく、ユニットを跨いで関わりあえるように配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームからの積極的なアプローチは控えているが、連絡・相談があったときは、支援するように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人のニーズが何なのか?を毎月のユニット会議で検討し、ニーズが満たすには何が出来るかを検討している。	話しかけ方を工夫したり表情や仕草、雰囲気などから思いや意向を把握している。センター方式(B-3)シートに現状を具体的に記入し、全利用者の情報を更に充実させたいと考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴などを把握し、サービス提供に役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月のユニット会議で生活の振り返りを行い、生活の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニット会議で生活の振り返りを行い、より良い日常生活が送れるように話し合い、ケアプランや行事に反映させている。	計画作成担当者を中心に全職員で評価を行い、家族の意向を事前に聞き取り6か月ごとに介護計画を作成している。評価表のコメント欄に現状を記入しているが、今後の方向性に関する内容を記入するまでには至っていない。	今後の方向性に関して話し合った内容を評価表のコメント欄に記入し、介護計画の見直しに活かすよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご本人が発した言葉を記録に残すことや、申し送りをすることで、職員が把握し、ケアプランに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族のニーズによって、ホームが対応出来る範囲であれば、多岐に渡って柔軟な支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染対策の観点から利用出来る地域資源も限られている。出来る限りご本人が安全に暮らせる様に職員、ご家族と相談して支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームと提携している往診に拘ることなく、長年通っていた病院とも連携し、納得の出来る医療が受けられるように配慮している。	利用者は、月2回協力医療機関の往診を受けている。専門医の受診は事業所で通院支援を行い、主治医と連携しながら適切な医療支援を行っている。通院は「受診記録」に記入し、往診も個別に記録している。	

ふれあいの里グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月4回訪問する訪問看護師に日々の気付きを相談し、専門的なアドバイスを受けて、適切な医療が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は本人の情報を正しく伝えると同時に、往診Drからの診療情報提供書を添えて医療を受けてもらっている。また、入院中は少なくとも週1回は病院連携室と連絡をとり、早期退院に繋げている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時から重度化の指針の説明を行い、終末期には家族・往診Dr・ホームの3者で話し合いを行い、ご家族の希望に添えるように支援している。	利用開始時に「ご利用様が重度化した場合の対応に係る指針」に沿って事業所の方針を説明し、署名捺印を得ている。重度化した場合は医療行為の必要ない範囲での支援を行う方針とし、最近も数名の看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	関連事業所と合同で救命救急の講習を受けるなどし、急変時の対応が出来るように備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施し、災害に備えるとともに、食料・暖房・災害時の備品の備蓄をすることで、災害に備えている。	年2回、昼夜および、火災と地震を想定した避難訓練を行っており、感染症が落ち着けば消防や住民の指導や協力を得る予定としている。職員の入れ替わりが多かったこともあり、救急救命訓練の受講は十分に行っていない。	救急救命訓練について、各職員の前回受講時期を把握し、全職員が計画的に受講できるよう取り組みを期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	コミュニケーションの基本である言葉使いについては、各職員に対応の振り返りを行ってもらい、尊厳を持った関わりが出来るように配慮している。	利用者の呼びかけは「さん」づけとし、接遇等の勉強会を随時行っている。申し送りでは部屋番号などを用い、聞こえないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行事などは職員だけで決めるのではなく、入居者様の意見を最大限に反映させるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	選択肢のある問いかけをし、どのように過ごしたかを希望に添えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方が望む、装飾品や化粧品、美容などを制限することなくしてもらっている。		

ふれあいの里グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備・片付け・調理など出来ることをしてもらいながら、食事を楽しみ、協同で行っている。	業者に献立と調理を委託し、行事の時は中止して特別料理でお祝いしている。ユニット間で焼き肉、鮭とイクラの丼物やテイクアウトの際に好きなものを選んで食べる。職員のおやつ作りに参加することもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の作るバランスのとれた献立に沿って食事を提供している。また、食事形態については個別にキザミ食・ミキサー食などにも対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、肺炎予防などに努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に時間によるトイレ誘導を行い、排泄の失敗が減るように努めている。	全員の排泄記録を基に個別の状態に沿って対応している。3割の利用者は自力ででき、夜間もトイレに誘導している。昼と夜でパッドを変えるなど、可能な限り改善や現状維持に向けて取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	特別な病気がない限り、色々な水分で1日1500ml程度水分を摂って頂くことと、1日1度は身体を使った運動(体操・レク)を行ってもらい、便秘予防をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴間隔の調整の為、概ね設定しているが、その日のご様子等で日時を変更する事もある。	いつでも入浴ができ、本人の意向に沿って午前中の時間帯に週2～3回の入浴を支援している。希望があれば同性介助や好みのシャンプーなどにも対応している。入浴中は職員と会話を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中運動や散歩を行い、夜間眠れるように支援している。また、個別で昼寝が必要な場合は夜間に影響しないような時間(1時間程度)休息の時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬情報をファイルし、常時閲覧できるようにしていることと、場合によっては連絡ノートで副作用について情報を共有したりしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別に役割をもった生活が出来るように支援したり、ホーム内で毎月行事を企画し、楽しみとなることを提供できるように支援している。		

ふれあいの里グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今までは職員と一緒に近隣の散歩やドライブで出かける事をしてきたが、現在は感染対策の観点から外出自体を自粛している。	感染症流行の影響で日常的な外出は控えているが、今後も可能な限り玄関先での外気浴等を取り入れていく意向である。感染症の収束後は以前行っていた近隣の庭先の花を見ながらの散歩や個別の外出支援、ドライブや花見などの外出行事も再開したいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別での現金管理は行っていないが、外出の際に支払いを本人に行ってもら、などの支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたい時は事務所の電話をつかってもらったり、かかってきたときは直接本人につなげている。自由に電話出来るように支援している。また、携帯電話の所持も自由にしてている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は常に明るくするように配慮し、出来るだけ昼夜が把握出来るように太陽の光が入るようにしている。また、季節に応じて装飾を変更するなど、四季が感じられる空間を作っている。	台所を中心に両サイドに広がる居間や食堂は多くの窓に面しており、光が差し込み明るく開放的な空間になっている。天井と廊下には手作りの装飾が施され、職員、利用者の写真なども掲示され家庭的な温もりが感じられる。エアコンや空気清浄機なども設置されており、快適に思い思いの場所で過ごすことのできる共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座る位置などは固定しておらず、自由に過ごせるように配慮している。また、ユニットに拘ることなく、違うユニットに行くことも自由にしてている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れたものを持ち込んでいただき、今までの生活空間に近づけてもらっている。	クローゼットが備え付けられている居室にはベッドや仏壇、以前から使用している椅子など馴染みの物を持ち込んでいる利用者もいる。壁面には家族写真やメッセージカード、温湿度計が設置されており安心して過ごせる家庭的な居室が作られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	導線には手すりの設置や安全な空間(廊下などのスペース)をとっている。また、場所がわかる表札などを設置し、場所の認識が出来るように配慮している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190200832		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里グループホームたいへい Bユニット		
所在地	札幌市北区太平2条4丁目1番55号		
自己評価作成日	令和4年1月12日	評価結果市町村受理日	令和4年7月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0190200832-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・立地場所のすぐ目の前にはJR太平駅、国道231号線も近くに通っており、交通の便が良く、小学校やスーパーなどもあるため、地域との交流も図れる環境に立地しています。
 ・入居者様の歩んできた人生を重んじ、今までの日常生活が変わらず過ごせるように支援するため、一つの生活空間が6名という少人数の中で、生活時間帯は手厚い人員配置のもと認知症ケアを行い、若年性認知症など個々に合わせた専門的な支援を行っています。
 ・健康面では協力医療機関と提携し、月2回個別に医師の訪問があるのと、訪問看護による週1回の健康管理を行っています。また、突然の体調変化にも対応出来るよう、24時間医師・看護師と連絡が取れる体制を整えています。栄養面でも楽しみの一つとなる食事は、管理栄養士による栄養バランスのとれた献立に基づき食事を提供し、個々の食事形態(キザミ食やミキサー食、塩分制限など)に合わせた食事の提供も可能です。祝祭日・行事などの日にはお祝いのメニューもあります。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和4年7月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を各ユニットに掲示して共有し、その理念に基づき実践に取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍以前は町内会のイベントなどに参加していたが、現在は感染対策の観点から行事の開催が無く、施設側も外出自粛や入館制限など実施している為、回覧板の受け渡しなど限定的になっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染対策により町内行事の中止や外部からの訪問者の制限などにより実施出来ていないが、今後の展開により方法や機会の確保などに努めたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染対策の為、運営推進会議が書面開催となっており、直接会議に参加して議論を重ねる事は出来ないが、電話や書面によりサービス提供内容を伝え、ご意見があった場合には確認し実現に向け検討している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居状況調査報告や事故報告での関わりや、各担当部署への必要事項の確認など日頃より協力関係が維持出来るよう努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化の指針や身体拘束排除宣言を各ユニットの事務所に掲示し、身体拘束をしない介護に取り組んでいる。三ヶ月ごとの不適切ケア防止委員会、半年ごとの身体拘束に関する研修を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の研修への参加やユニット会議内で虐待についての話し合いなどを行っている。		

ふれあいの里グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象者がいないこともあり、関係機関と学ぶための交流はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には重要事項説明、利用契約書を説明し同意を得ている。また、改定がある際は文書や運営推進会議の場で説明し、書面に同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の意向は自発的に訴えられる方は少なく、職員が確認し反映出来るよう努めている。ご家族様よりの電話連絡や個人ごとのお便りを作成して情報交換に努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議の場で出た意見を取り入れ、入居者様の為になるものは積極的に取り入れるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人員の確保や制度の活用、毎年の昇給を行い、労働環境の改善に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社独自の研修計画を立て、職員に合った研修を行って、職員のスキルアップに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染対策の観点からオンラインにて管理者会議などの交流はあるが、外部との交流を控えており集合しての勉強会や訪問などは行っていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価 (Bユニット)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の生活歴・嗜好・趣味・特技などを事前に本人、ご家族、医療機関、利用していたサービス事業所などから情報収集し、利用開始前に把握し、良い関係作りに役立てている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要望・希望・不安・気になることなど利用開始前から話を聞き、関係作りに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始時には出来るだけポイント絞り込み、今必要な支援と、関係作りの構築に集中するように心がけている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事と出来ない事の見極めをし、出来ることは行ってもらいながら生活して頂き、共同生活であることを実感してもらえるように努めている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在は一定の制限があるが、限られた時間や人数での面会を行ったり、電話にてご本人様と直接お話ししていただくなど交流を継続している。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親族は勿論のこと、友人など面会制限することなく、関係を継続している。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が会話出来るような空間を作り、関係を維持または構築できるように配慮している。時には、ユニットに拘ることなく、ユニットを跨いで関わりあえるように配慮している。			

ふれあいの里グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームからの積極的なアプローチは控えているが、連絡・相談があったときは、支援するように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人のニーズが何なのか？を毎月のユニット会議で検討し、ニーズが満たすには何が出来るかを検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴などを把握し、サービス提供に役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月のユニット会議で生活の振り返りを行い、生活の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニット会議で生活の振り返りを行い、より良い日常生活が送れるように話し合い、ケアプランや行事に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご本人が発した言葉を記録に残すことや、申し送りをする事で、職員が把握し、ケアプランに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族のニーズによって、ホームが対応出来る範囲であれば、多岐に渡って柔軟な支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染対策の観点から利用出来る地域資源も限られている。出来る限りご本人が安全に暮らせる様に職員、ご家族と相談して支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームと提携している往診に拘ることなく、長年通っていた病院とも連携し、納得の出来る医療が受けられるように配慮している。		

ふれあいの里グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月4回訪問する訪問看護師に日々の気づきを相談し、専門的なアドバイスを受けて、適切な医療が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は本人の情報を正しく伝えると同時に、往診Drからの診療情報提供書を添えて医療を受けてもらっている。また、入院中は少なくとも週1回は病院連携室と連絡をとり、早期退院に繋げている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時から重度化の指針の説明を行い、終末期には家族・往診Dr・ホームの3者で話し合いを行い、ご家族の希望に添えるように支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	関連事業所と合同で救命救急の講習を受けるなどし、急変時の対応が出来るように備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施し、災害に備えるとともに、食料・暖房・災害時の備品の備蓄をすることで、災害に備えている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	コミュニケーションの基本である言葉使いについては、各職員に対応の振り返りを行ってもらい、尊厳を持った関わりが出来るように配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行事など職員で決めるのではなく、入居者様の意見を最大限に反映させるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	選択肢のある問いかけをし、どのように過ごしたいかを希望に添えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方が望む、装飾品や化粧品、美容などを制限することなくしてもらっている。		

ふれあいの里グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備・片付け・調理など出来ることをしてもらいながら、食事を楽しみ、協同で行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の作るバランスのとれた献立に沿って食事を提供している。また、食事形態については個別にキザミ食・ミキサー食などにも対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、肺炎予防などに努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に時間によるトイレ誘導を行い、排泄の失敗が減るように努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	特別な病気がない限り、色々な水分で1日1500ml程度水分を摂って頂くことと、1日1度は身体を使った運動(体操・レク)を行ってもらい、便秘予防をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴間隔の調整の為、概ね設定しているが、その日のご様子等で日時変更する事もある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中運動や散歩を行い、夜間眠れるように支援している。また、個別で昼寝が必要な場合は夜間に影響しないような時間(1時間程度)休息の時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬情報をファイルし、常時閲覧できるようにしていることと、場合によっては連絡ノートで副作用について情報を共有したりしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別に役割をもった生活が出来るように支援したり、ホーム内で毎月行事を企画し、楽しみとなることを提供できるように支援している。		

ふれあいの里グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今までは職員と一緒に近隣の散歩やドライブで出かける事をしてきたが、現在は感染対策の観点から外出自体を自粛している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別での現金管理は行っていないが、外出の際に支払いを本人に行ってもら、などの支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたい時は事務所の電話をつかってもらったり、かかってきたときは直接本人につなげている。自由に電話出来るように支援している。また、携帯電話の所持も自由になっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は常に明るくするように配慮し、出来るだけ昼夜が把握出来るように太陽の光が入るようにしている。また、季節に応じて装飾を変更するなど、四季が感じられる空間を作っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座る位置などは固定しておらず、自由に過ごせるように配慮している。また、ユニットに拘ることなく、違うユニットに行くことも自由になっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れたものを持ち込んでいただき、今までの生活空間に近づけてもらっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	導線には手すりの設置や安全な空間(廊下などのスペース)をとっている。また、場所がわかる表札などを設置し、場所の認識が出来るように配慮している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190200832		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里グループホームたいへい Cユニット		
所在地	札幌市北区太平2条4丁目1番55号		
自己評価作成日	令和4年1月12日	評価結果市町村受理日	令和4年7月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0190200832-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・立地場所のすぐ目の前にはJR太平駅、国道231号線も近くに通っており、交通の便が良く、小学校やスーパーなどもあるため、地域との交流も図れる環境に立地しています。
 ・入居者様の歩んできた人生を重んじ、今までの日常生活が変わらず過ごせるように支援するため、一つの生活空間が6名という少人数の中で、生活時間帯は手厚い人員配置のもと認知症ケアを行い、若年性認知症など個々に合わせた専門的な支援を行っています。
 ・健康面では協力医療機関と提携し、月2回個別に医師の訪問があるのと、訪問看護による週1回の健康管理を行っています。また、突然の体調変化にも対応出来るよう、24時間医師・看護師と連絡が取れる体制を整えています。栄養面でも楽しみの一つとなる食事は、管理栄養士による栄養バランスのとれた献立に基づき食事を提供し、個々の食事形態(キザミ食やミキサー食、塩分制限など)に合わせた食事の提供も可能です。祝祭日・行事などの日にはお祝いのメニューもあります。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和4年7月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット)	外部評価所	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を各ユニットに掲示して共有し、その理念に基づき実践に取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍以前は町内会のイベントなどに参加していたが、現在は感染対策の観点から行事の開催が無く、施設側も外出自粛や入館制限など実施している為、回覧板の受け渡しなど限定的になっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染対策により町内行事の中止や外部からの訪問者の制限などにより実施出来ていないが、今後の展開により方法や機会の確保などに努めたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染対策の為、運営推進会議が書面開催となっており、直接会議に参加して議論を重ねる事は出来ないが、電話や書面によりサービス提供内容を伝え、ご意見があった場合には確認し実現に向け検討している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居状況調査報告や事故報告での関わりや、各担当部署への必要事項の確認など日頃より協力関係が維持出来るよう努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化の指針や身体拘束排除宣言を各ユニットの事務所に掲示し、身体拘束をしない介護に取り組んでいる。三ヶ月ごとの不適切ケア防止委員会、半年ごとの身体拘束に関する研修を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の研修への参加やユニット会議内で虐待についての話し合いなどを行っている。		

ふれあいの里グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Cユニット)	外部評価所	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象者がいないこともあり、関係機関と学ぶための交流はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には重要事項説明、利用契約書を説明し同意を得ている。また、改定がある際は文書や運営推進会議の場で説明し、書面に同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の意向は自発的に訴えられる方は少なく、職員が確認し反映出来るよう努めている。ご家族様よりの電話連絡や個人ごとのお便りを作成して情報交換に努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議の場で出た意見を取り入れ、入居者様の為になるものは積極的に取り入れるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人員の確保や制度の活用、毎年の昇給を行い、労働環境の改善に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社独自の研修計画を立て、職員に合った研修を行って、職員のスキルアップに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染対策の観点からオンラインにて管理者会議などの交流はあるが、外部との交流を控えており集合しての勉強会や訪問などは行えていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット)	外部評価所	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の生活歴・嗜好・趣味・特技などを事前に本人、ご家族、医療機関、利用していたサービス事業所などから情報収集し、利用開始前に把握し、良い関係作りに役立てている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要望・希望・不安・気になることなど利用開始前から話を聞き、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始時には出来るだけポイント絞り込み、今必要な支援と、関係作りの構築に集中するように心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事と出来ない事の見極めをし、出来ることは行ってもらいながら生活して頂き、共同生活であることを実感してもらえるように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在は一定の制限があるが、限られた時間や人数での面会を行ったり、電話にてご本人様と直接お話ししていただくなど交流を継続している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親族は勿論のこと、友人など面会制限することなく、関係を継続している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が会話出来るような空間を作り、関係を維持または構築できるように配慮している。時には、ユニットに拘ることなく、ユニットを跨いで関わりあえるように配慮している。		

ふれあいの里グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Cユニット)	外部評価所	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームからの積極的なアプローチは控えているが、連絡・相談があったときは、支援するように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人のニーズが何なのか？を毎月のユニット会議で検討し、ニーズが満たすには何が出来るかを検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴などを把握し、サービス提供に役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月のユニット会議で生活の振り返りを行い、生活の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニット会議で生活の振り返りを行い、より良い日常生活が送れるように話し合い、ケアプランや行事に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご本人が発した言葉を記録に残すことや、申し送りをすることで、職員が把握し、ケアプランに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族のニーズによって、ホームが対応出来る範囲であれば、多岐に渡って柔軟な支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染対策の観点から利用出来る地域資源も限られている。出来る限りご本人が安全に暮らせる様に職員、ご家族と相談して支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームと提携している往診に拘ることなく、長年通っていた病院とも連携し、納得の出来る医療が受けられるように配慮している。		

ふれあいの里グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Cユニット)	外部評価所	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月4回訪問する訪問看護師に日々の気づきを相談し、専門的なアドバイスを受けて、適切な医療が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は本人の情報を正しく伝えると同時に、往診Drからの診療情報提供書を添えて医療を受けてもらっている。また、入院中は少なくとも週1回は病院連携室と連絡をとり、早期退院に繋げている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時から重度化の指針の説明を行い、終末期には家族・往診Dr・ホームの3者で話し合いを行い、ご家族の希望に添えるように支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	関連事業所と合同で救命救急の講習を受けるなどし、急変時の対応が出来るように備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施し、災害に備えるとともに、食料・暖房・災害時の備品の備蓄をすることで、災害に備えている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	コミュニケーションの基本である言葉使いについては、各職員に対応の振り返りを行ってもらい、尊厳を持った関わりが出来るように配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行事など職員で決めるのではなく、入居者様の意見を最大限に反映させるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	選択肢のある問いかけをし、どのように過ごしたいかを希望に添えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方が望む、装飾品や化粧品、美容などを制限することなくしてもらっている。		

ふれあいの里グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Cユニット)	外部評価所	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備・片付け・調理など出来ることをしてもらいながら、食事を楽しみ、協同で行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の作るバランスのとれた献立に沿って食事を提供している。また、食事形態については個別にキザミ食・ミキサー食などにも対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、肺炎予防などに努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に時間によるトイレ誘導を行い、排泄の失敗が減るように努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	特別な病気がない限り、色々な水分で1日1500ml程度水分を摂って頂くことと、1日1度は身体を使った運動(体操・レク)を行ってもらい、便秘予防をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴間隔の調整の為、概ね設定しているが、その日のご様子等で日時変更する事もある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中運動や散歩を行い、夜間眠れるように支援している。また、個別で昼寝が必要な場合は夜間に影響しないような時間(1時間程度)休息の時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬情報をファイルし、常時閲覧できるようにしていることと、場合によっては連絡ノートで副作用について情報を共有したりしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別に役割をもった生活が出来るように支援したり、ホーム内で毎月行事を企画し、楽しみとなることを提供できるように支援している。		

ふれあいの里グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Cユニット)	外部評価所	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今までは職員と一緒に近隣の散歩やドライブで出かける事をしてきたが、現在は感染対策の観点から外出自体を自粛している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別での現金管理は行っていないが、外出の際に支払いを本人に行ってもら、などの支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたい時は事務所の電話をつかってもらったり、かかってきたときは直接本人につなげている。自由に電話出来るように支援している。また、携帯電話の所持も自由になっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は常に明るくするように配慮し、出来るだけ昼夜が把握出来るように太陽の光が入るようにしている。また、季節に応じて装飾を変更するなど、四季が感じられる空間を作っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座る位置などは固定しておらず、自由に過ごせるように配慮している。また、ユニットに拘ることなく、違うユニットに行くことも自由になっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れたものを持ち込んでいただき、今までの生活空間に近づけてもらっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	導線には手すりの設置や安全な空間(廊下などのスペース)をとっている。また、場所がわかる表札などを設置し、場所の認識が出来るように配慮している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190200832		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里グループホームたいへい Dユニット		
所在地	札幌市北区太平2条4丁目1番55号		
自己評価作成日	令和4年1月12日	評価結果市町村受理日	令和4年7月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0190200832-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・立地場所のすぐ目の前にはJR太平駅、国道231号線も近くに通っており、交通の便が良く、小学校やスーパーなどもあるため、地域との交流も図れる環境に立地しています。
 ・入居者様の歩んできた人生を重んじ、今までの日常生活が変わらず過ごせるように支援するため、一つの生活空間が6名という少人数の中で、生活時間帯は手厚い人員配置のもと認知症ケアを行い、若年性認知症など個々に合わせた専門的な支援を行っています。
 ・健康面では協力医療機関と提携し、月2回個別に医師の訪問があるのと、訪問看護による週1回の健康管理を行っています。また、突然の体調変化にも対応出来るよう、24時間医師・看護師と連絡が取れる体制を整えています。栄養面でも楽しみの一つとなる食事は、管理栄養士による栄養バランスのとれた献立に基づき食事を提供し、個々の食事形態(キザミ食やミキサー食、塩分制限など)に合わせた食事の提供も可能です。祝祭日・行事などの日にはお祝いのメニューもあります。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和4年7月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Dユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を各ユニットに掲示して共有し、その理念に基づき実践に取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍以前は町内会のイベントなどに参加していたが、現在は感染対策の観点から行事の開催が無く、施設側も外出自粛や入館制限など実施している為、回覧板の受け渡しなど限定的になっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染対策により町内行事の中止や外部からの訪問者の制限などにより実施出来ていないが、今後の展開により方法や機会の確保などに努めたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染対策の為、運営推進会議が書面開催となっており、直接会議に参加して議論を重ねる事は出来ないが、電話や書面によりサービス提供内容を伝え、ご意見があった場合には確認し実現に向け検討している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居状況調査報告や事故報告での関わりや、各担当部署への必要事項の確認など日頃より協力関係が維持出来るよう努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化の指針や身体拘束排除宣言を各ユニットの事務所に掲示し、身体拘束をしない介護に取り組んでいる。三ヶ月ごとの不適切ケア防止委員会、半年ごとの身体拘束に関する研修を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の研修への参加やユニット会議内で虐待についての話し合いなどを行っている。		

ふれあいの里グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Dユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象者がいないこともあり、関係機関と学ぶための交流はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には重要事項説明、利用契約書を説明し同意を得ている。また、改定がある際は文書や運営推進会議の場で説明し、書面に同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の意向は自発的に訴えられる方は少なく、職員が確認し反映出来るよう努めている。ご家族様よりの電話連絡や個人ごとのお便りを作成して情報交換に努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議の場で出た意見を取り入れ、入居者様の為になるものは積極的に取り入れるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人員の確保や制度の活用、毎年の昇給を行い、労働環境の改善に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社独自の研修計画を立て、職員に合った研修を行って、職員のスキルアップに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染対策の観点からオンラインにて管理者会議などの交流はあるが、外部との交流を控えており集合しての勉強会や訪問などは行っていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価 (Dユニット)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の生活歴・嗜好・趣味・特技などを事前に本人、ご家族、医療機関、利用していたサービス事業所などから情報収集し、利用開始前に把握し、良い関係作りに役立てている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要望・希望・不安・気になることなど利用開始前から話を聞き、関係作りに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始時には出来るだけポイント絞り込み、今必要な支援と、関係作りの構築に集中するように心がけている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事と出来ない事の見極めをし、出来ることは行ってもらいながら生活して頂き、共同生活であることを実感してもらえるように努めている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在は一定の制限があるが、限られた時間や人数での面会を行ったり、電話にてご本人様と直接お話していただくなど交流を継続している。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親族は勿論のこと、友人など面会制限することなく、関係を継続している。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が会話出来るような空間を作り、関係を維持または構築できるように配慮している。時には、ユニットに拘ることなく、ユニットを跨いで関わりあえるように配慮している。			

ふれあいの里グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Dユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームからの積極的なアプローチは控えているが、連絡・相談があったときは、支援するように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人のニーズが何なのか？を毎月のユニット会議で検討し、ニーズが満たすには何が出来るかを検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴などを把握し、サービス提供に役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月のユニット会議で生活の振り返りを行い、生活の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニット会議で生活の振り返りを行い、より良い日常生活が送れるように話し合い、ケアプランや行事に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご本人が発した言葉を記録に残すことや、申し送りをする事で、職員が把握し、ケアプランに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族のニーズによって、ホームが対応出来る範囲であれば、多岐に渡って柔軟な支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染対策の観点から利用出来る地域資源も限られている。出来る限りご本人が安全に暮らせる様に職員、ご家族と相談して支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームと提携している往診に拘ることなく、長年通っていた病院とも連携し、納得の出来る医療が受けられるように配慮している。		

ふれあいの里グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Dユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月4回訪問する訪問看護師に日々の気づきを相談し、専門的なアドバイスを受けて、適切な医療が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は本人の情報を正しく伝えると同時に、往診Drからの診療情報提供書を添えて医療を受けてもらっている。また、入院中は少なくとも週1回は病院連携室と連絡をとり、早期退院に繋げている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時から重度化の指針の説明を行い、終末期には家族・往診Dr・ホームの3者で話し合いを行い、ご家族の希望に添えるように支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	関連事業所と合同で救命救急の講習を受けるなどし、急変時の対応が出来るように備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施し、災害に備えるとともに、食料・暖房・災害時の備品の備蓄をすることで、災害に備えている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	コミュニケーションの基本である言葉使いについては、各職員に対応の振り返りを行ってもらい、尊厳を持った関わりが出来るように配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行事など職員で決めるのではなく、入居者様の意見を最大限に反映させるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	選択肢のある問いかけをし、どのように過ごしたいかを希望に添えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方が望む、装飾品や化粧品、美容などを制限することなくしてもらっている。		

ふれあいの里グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Dユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備・片付け・調理など出来ることをしてもらいながら、食事を楽しみ、協同で行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の作るバランスのとれた献立に沿って食事を提供している。また、食事形態については個別にキザミ食・ミキサー食などにも対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、肺炎予防などに努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に時間によるトイレ誘導を行い、排泄の失敗が減るように努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	特別な病気がない限り、色々な水分で1日1500ml程度水分を摂って頂くことと、1日1度は身体を使った運動(体操・レク)を行ってもらい、便秘予防をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴間隔の調整の為、概ね設定しているが、その日のご様子等で日時変更する事もある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中運動や散歩を行い、夜間眠れるように支援している。また、個別で昼寝が必要な場合は夜間に影響しないような時間(1時間程度)休息の時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬情報をファイルし、常時閲覧できるようにしていることと、場合によっては連絡ノートで副作用について情報を共有したりしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別に役割をもった生活が出来るように支援したり、ホーム内で毎月行事を企画し、楽しみとなることを提供できるように支援している。		

ふれあいの里グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Dユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今までは職員と一緒に近隣の散歩やドライブで出かける事をしてきたが、現在は感染対策の観点から外出自体を自粛している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別での現金管理は行っていないが、外出の際に支払いを本人に行ってもら、などの支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたい時は事務所の電話をつかってもらったり、かかってきたときは直接本人につなげている。自由に電話出来るように支援している。また、携帯電話の所持も自由になっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は常に明るくするように配慮し、出来るだけ昼夜が把握出来るように太陽の光が入るようにしている。また、季節に応じて装飾を変更するなど、四季が感じられる空間を作っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座る位置などは固定しておらず、自由に過ごせるように配慮している。また、ユニットに拘ることなく、違うユニットに行くことも自由になっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れたものを持ち込んでいただき、今までの生活空間に近づけてもらっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	導線には手すりの設置や安全な空間(廊下などのスペース)をとっている。また、場所がわかる表札などを設置し、場所の認識が出来るように配慮している。		

目標達成計画

事業所名 ふれあいの里グループホームたいへい

作成日：令和 4年 7月 19日

市町村受理日：令和 4年 7月 20日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議において、現在は入居者情報や事故・ヒヤリハット、行事など報告する事で終わっており、議事録に対する意見収集までには至っていない。	参加出来ない構成メンバーからの意見や質問なども議事録に反映させる事が出来る。	テーマを設定し、情報資料などを議事録と一緒に送付し、参加出来ない構成メンバーから意見収集し、議事録に反映させる。	1年
2	26	評価表のコメント欄に現状を記入しているが、今後の方向性に関する内容が記入されていない。	評価表のコメント欄に今後の方向性を記入して、介護計画の見直しに活かす事が出来る。	情報収集、意見の募り方や記入方法を検討して、評価表の充実を計り、介護計画の見直しに活かす。	1年
3	35	救急救命訓練の受講を十分に行えていない。	全職員が救急救命訓練の受講を受けることが出来る。	全職員の受講状況を把握して、計画的に受講出来る取り組みを行う。	1年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。